

発言者	発言内容
伊豆参事兼学校 指導課長	<p>おはようございます。本日は、お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p>定刻になりましたので、ただ今より、清和台地区小学校区に関する地域説明会を始めます。はじめに、川西市教育長、牛尾がごあいさつ申し上げます。</p>
牛尾教育長	<p>皆様おはようございます。今回、ほんとに良い天気の中ですが、説明会にご臨席を賜りまして誠にありがとうございます。平素は川西の教育、子どもたちのためにご支援とご協力をいただいております。ほんとに重ねてお礼申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>さて、川西市教育委員会では、清和台地区におきまして、当初、当時の児童数推計をもって、清和台小学校と清和台南小学校を統合するという方針を決定して、皆様に説明をさせていただいております。しかし、多くの皆様方からのご意見を頂戴いたしました。また児童数の実態の状況を見た中で、統合までのプロセス、保護者や地域の皆様への説明プロセスに課題があったと、そのことを踏まえまして、昨年、平成28年6月に、小学校統合に関しまして再検討することで教育委員会として決定をさせていただいたところです。これまでの様々な経過において、結果的には多くの皆様方にご迷惑・ご心配をお掛けしました。市教育委員会を代表しまして、改めてお詫びを申し上げます。</p> <p>市教育委員会といたしましては、その後、様々なご意見やお考えを整理させていただき、改めまして2地区における「学校配置の適正化に関する手順」を作成し、まとめさせていただきました。内容につきましては、お手元の資料を見て、この後、担当者からご説明させていただきます。大きく申し上げますと、今後の学校配置の適正化を進めていく、その際には地域の実情に応じた検討をしっかりと行いたいと、二つ目に保護者や地域の皆様と議論を重ねそれをもって進めていくことが大事だというふうに捉えています。再検討後の教育委員会としての大きな考え方はそこにございます。</p> <p>本日、説明会を持ち、皆様方からご質問とかご意見を頂戴いたしまして、そして議論を深めてお伝えできればと考えています。限られた時間ですが、よろしく願いいたします。</p>
伊豆参事兼学校 指導課長	<p>ここで、本日出席しております、事務局職員を紹介いたします。</p> <p>先ほど、ご挨拶いたしました 川西市教育長の牛尾です。</p> <p>教育推進部長の木下です。</p> <p>学校教育室長の岸です。</p> <p>総務調整室長兼教育推進部参事の中西です。</p> <p>学務課長の志波です。</p>

<p>木下教育推進部長</p>	<p>私は、本日司会を務めます、教育推進部参事兼学校指導課長の伊豆でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、お手元の資料をもとにご説明します。説明の後、皆様からご意見を賜る時間を考えております。また、本日のご意見を記録するため、本説明会の音声は録音させていただきますので、ご了承願います。</p> <p>それでは、まず、教育推進部長木下から説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>失礼いたします。この後、担当のほうから、お手元に配布しております「学校配置の適正化に関する手順」につきましてご説明をさせていただきたくわけでございますけれども、その前に、私のほうから1点、お話をさせていただきたいと思っております。それは、昨年8月、地域説明会ということで、学校配置の適正化については再検討しますということで説明をさせていただきました。その中で、8月20日の清和台南小学校での説明会の中で、「今後示される手順については、川西市全体の手順になっていくのか」というご質問に対し、「そのように考えています。」というふうにお答えしています。つまり、川西市全体の手順をお示しますと前回の説明会ではお話をさせていただきました。ただ、今回の手順を見ていただきますとお判りのとおり多田グリーンハイツ地区・清和台地区の2地区に限定した手順となっております。その点につきまして、私の方から説明させていただきます。</p> <p>校区審議会の答申では、市全体的な考え方として、学校教育の十全な展開と教育上の平等性の確保、通学上の安全の確保、地域との関係性という3つが示されております。そして、多田グリーンハイツ地区と清和台地区の2地区について統合が妥当であるという見解が校区審議会の中で示され、教育委員会として統合に向けた取り組みを進めてきたという経緯がございます。しかしながら、児童数の実態の状況、それから様々な意見や考えを整理する中で、今回の手順、つまり2地区における手順作成に至ったという経緯でございます。したがって、本日お示ししている学校配置の適正化に関する手順については2地区に限定したものになっている、こういうことでございます。併せて、先ほどの教育長の話にもありましたけれど、やはり地域の実態とか、そういったことを踏まえながら学校配置の適正化を進めていくという考えの中で、市内全体の手順を示していくということに関しましては、現時点においては非常に難しい作業であるというふうにご覧しております。</p> <p>このようなことから、前回の説明会における発言とは異なりますけれども、2地区の手順お示しさせていただいておりますということに対し、お詫び申し上げますとともに、ご理解賜りますよう、よろしくお願いいたしますと思います。</p> <p>この後、引き続き、担当のほうから学校配置の適正化に関する手順について説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p>
-----------------	--

志波学務課長

失礼いたします。それでは私のほうから、多田グリーンハイツ地区・清和台地区における学校配置の適正化に関する手順についてご説明させていただきたいと思っております。少し長くなりますので、座って説明をさせていただきたいと思っております。

まず、本日の資料は2種類ございまして、1つは「学校配置の適正化に関する手順」と書かれたA4を5枚ホチキス止めの冊子、A3で表の形式にした「児童推計表」と書かれた資料、この2点です。

資料の説明に入らせていただく前に、まず、これまでの経緯も含めまして、少しお話をさせていただきたいと思っております。

当初、市教育委員会としましては、少子化の影響で、全国的に学校規模の小規模化が進んでいる状況のもとで、今から約2年前、校区審議会からの答申を受けて、小学校統合について検討を進めてまいりました。しかしながら、児童数の状況を整理する中で、児童推計方法や学校統合までのプロセス、そして、保護者や地域住民の皆様への説明プロセス、そこに課題があったと結論づけまして、昨年、平成28年6月には、小学校統合については再検討するという事に決定をいたしました。その後、多くの皆様からいただきました様々なご意見やお考えを整理いたしまして、学校配置の適正化に関する手順を作成いたしまして、本日、皆様にお配りしているということでございます。なお、この資料に基づきまして、清和台地区においては本日の5月14日(日)、清和台南小学校では今日の15時から開催ということで、多田グリーンハイツ地区においては5月21日、来週の日曜日に、それぞれ地域説明会を開催し、ご説明することとなっております。今後、学校配置の適正化を検討していく上では、今まで以上、より良い教育環境への充実を図るとともに、小学校がコミュニティの核であること、これを勘案しながら、地域の実情に応じて検討を進めるということを基本的な考え方としております。具体的には、以前お示ししておりましたような児童数推計に基づいた進め方ではなく、児童数の実態、実人数の動きを見た上で、必要な時点から検討をスタートさせることとしております。また、検討を始めてからは、例えば2年後とか3年後とかというように、あらかじめ統合時期を決めておくのではなく、保護者や地域の皆様のお考えをお聞きしながら、適切と考えられる時期に実施するという事で考えております。また、学校の選定に関しましても、その時点から、改めて検討を始めることとしております。

それでは、お配りしております資料に基づきましてご説明させていただきます。まずA4の冊子「学校配置の適正化に関する手順」をご覧ください。表紙をめくっていただきますと「目次」を記載しておりますが、「手順作成の主旨について」から「これまでの経過」、「学校配置の適正化にかかる基本的な考え方」など、大きく6つの項目に分けて整理しております。

では1ページをご覧ください。ここでは、本手順の作成主旨について記載しております。地域によりましては、小学校の小規模化が進んでいる現状や、小規模校の教育上の利点、一方で問題点といったものを記載しております。また、下か

ら6行目以降になりますが、市教育委員会としては、小学校の小規模化に対し、教育上の平等性を確保するためにも「ある一定規模の集団を確保することが必要である」という考えのもとで、この手順を作成した、そのような主旨をお示ししております。

次に2ページをご覧ください。ここでは、これまでの経緯を整理しております。多田グリーンハイツ・清和台の両地区における学校配置の適正化に関しましては、校区審議会の中で審議され、その答申に基づいて、今から約2年前の平成27年8月、教育委員会定例会において小学校統合について方針決定をいたしました。しかしながら、児童数の見通しや各地域からの様々なお考えやご意見を整理する中で、昨年、平成28年6月の教育委員会定例会で、両地区での小学校統合は再検討することに決定したという、これまでの事実経過を記載しております。

次に3ページをご覧ください。3としまして、市教育委員会としての「学校配置の適正化にかかる基本的な考え方」を記載しております。小学校が地域コミュニティの核であることを勘案し、今後、地域の実情に応じた検討を進めること、また、保護者や地域の方々との丁寧な議論を進めていくこと、それらをお示ししております。次に、4としまして「学校配置の適正化実施条件と新たな児童推計手法」について記載しております。まず「(1)適正化実施条件」ですが、年度当初の4月に、いずれかの学校、つまり、多田グリーンハイツ地区では緑台小学校または陽明小学校に、清和台地区では清和台小学校または清和台南小学校において、複数学年に単学級、1クラスの実態がある場合に、そういう状況が起こった時に、その時点から、学校・保護者・地域の方々との協議をスタートさせるということに記載しております。続きまして「(2)新たな児童推計手法」では、児童数推計の算出方法を記載しておりますが、先ほどご説明しましたとおり、適正化実施条件は「いずれかの小学校の複数学年に単学級が実際に発生した場合」としてありますので、児童数推計は、今後の見通しなど、状況把握にのみ活用いたします。

次に4ページをご覧ください。ここからは、「学校配置の適正化に関する手順」ということで、(1)では「学校配置の適正化に関する手順の説明」ということで記載しております。ここでは、今回お示ししております本手順を皆様にご理解いただくため、下の図でお示ししておりますとおり、各小学校区単位を中心に、ご意見やお考えを聴く機会を設けたいとしております。

5ページをご覧ください。(2)では「適正化実施条件の検証」について記載しております。毎年、年度当初に学級数の実態を確認し、適正化実施条件が認められない場合には「現状を維持します」としてありますが、いずれかの小学校の複数学年に単学級の実態があった場合には、学校配置の適正化に向けて検討していくという内容です。続きまして「(3)学校配置の適正化に向けての協議の進め方」では、適正化の実施時期、学校の選定、通学上の安全確保などについて協議を進め、適宜説明会を開催しながら、ご理解とご協力が得られるよう努めてい

くとしております。

次に6ページの上段に移ります。とりわけ、学校の選定ということについては、まずは学校の環境、教育的な視点が中心となってまいりますが、まちづくり・地域づくりとの関わりも踏まえながら検討するということ、また、学校の跡地利用については、学校選定後に、市長を中心とした関係部署で、地域の皆様からの要望を踏まえつつ、計画的・総合的に検討していくとしております。続いて、本手順のまとめとして「6.最後に」として記載しております。学校配置の適正化について検討を進めることの必要性のほか、教育環境・生活環境等をより良い方向に改善していくことが目的であるということ、また、学校配置の適正化について「検討すべき状況が来れば」、地域の皆様と協議を行い、市教育委員会において具体的な検討を進めていくということをお示ししております。

では、もう1枚、A3版で配布しております「平成28年度 新たな児童推計手法」と記載された資料をご覧ください。資料をご覧くださいますと、左上のほうに、参考ということで「平成28年5月1日時点」という記載があるわけですが、つまりこの資料は、昨年5月のデータを基礎とした今後の児童数推計でございます。ただし、この資料では、既に1年古いデータが起点となっており、平成29年度の1学期開始時点の児童数では、この推計値と今年度の実数とで既に違いが出ております。そうしたことから、この資料は参考、目安でしかないということをお前提にして、ご覧いただきたいと思っております。また、繰り返しの説明にはなりますが、学校配置適正化に向けた検討を始める時期の判断には、児童数の推計値を用いることはございませんので、児童数推計は、参考資料としての活用となります。

以上が「学校配置の適正化に関する手順」に関する全体的なご説明になります。

少し長い説明になりましたので、ポイントを3点振り返ってお伝えします。まず1点目は、検討開始時期の判断には児童数推計、見込み値は用いないということです。児童数に関しては正確な見込みが困難でありますことから、あくまで実態を見て判断していくこととしております。2点目には、今すぐ検討を始めるのではなく、いずれかの小学校で複数学年に単学級が現れた、その時から検討がスタートするという事です。ですので、統合時期に関しても、学校の選定に関しても、その実態が現れてから具体的な検討を始めるということです。そして3点目に、今後、検討を進めるにあたっては、学校・保護者・地域の皆様のご意見やお考えをお伺いしながら、丁寧な議論を行うということです。市教育委員会で意思決定して一方的にお伝えするというやり方ではなく、様々なご意見を集約しながら方針決定へと導き、ご理解とご協力が得られるよう努めてまいります。

以上、市教育委員会として再検討いたしました内容、今後の手順について説明させていただきました。ご理解いただきますよう、どうぞよろしくお願いたします。

伊豆参事兼学校 指導課長	<p>それでは、ご意見・ご質問がありましたらお願いします。お手数ですが発言の前に、お名前はけっこうですので、「在籍児童の保護者様」か「未就学児の保護者様」、「地域の方」かについて、お知らせいただきたいと思います。なお、できるだけ多くの方に、ご発言の機会を作りたいと思いますので、ご発言の際には、要点を手短かにお伝えいただければ幸いです。</p> <p>では、よろしく願いいたします。</p>
参加者 <在籍保護者>	<p>小6と小1の子どもの父親です。お願いします。この実態を捕捉してから、適正化に向けて検討するという話やったと思うんですけども、実態まあ複数学年になってからですね、川西市さんで、適正化までの期間というのは当然シミュレーションされてると思うんですけども、その期間はどれぐらいにまで進んでいくという意味でお考えなのかをお聞かせいただければと思います。お願いします。</p>
志波学務課長	<p>はい、ありがとうございます。この適正化の時期ということでございますが、今の時点ではまだ未定ということでございます。具体的にその2年後とか3年後とか、そういったものを想定しているわけでは現時点ではありません。ただ、一般的なその全国的なその傾向としまして、こういったその小学校の統合など、適正化というものが進められるケースでは、大体検討を始めてから2年ないし3年、4年以内には結論が出ているということが半数以上でございます。と言ったところで、さらに統合という結論が出た場合には、そこからまた1～2年後の期間を置いて実際には適正化を実施するというのが全国的な傾向ではあるわけです。それから、川西市としましては、両地区における学校配置の適正化に関しまして、その統合の時期につきましても、改めて皆様と検討を進めていきながらですね、何年後が適切なのかということも、ご意見を伺いながら判断していきたいというように考えております。</p>
参加者 <在籍保護者>	<p>すみません、複数学年に単学級がある場合にということなんですが、【以下、音声不良のため省略】。</p>
志波学務課長	<p>すみません、ちょっと聞きとりにくかったんですが、複数学年に単学級が現れた場合、そう判断したその根拠でよろしいですかね。</p>
参加者 <在籍保護者>	<p>はい、そうです。</p>
志波学務課長	<p>これにつきましてはですね、まず今、実際にその1学年だけ単学級が現れた場合、これは清和台小学校でも清和台南小学校でもということなんですけれども、ただ、1学年だけであれば一時的なものである可能性があると考えております。</p>

<p>参加者 &lt;在籍保護者&gt;</p>	<p>これが複数の学年で出てきた場合には、今後、継続的にその単学級の状況が続く可能性が高いというような判断をいたしてありまして、1学年ではなく、複数の学年で単学級が発生した場合に検討を始めるといってございまして。</p>
<p>岸学校教育室長</p>	<p>はい、わかりました。</p> <p>失礼します。本当に今回ですね、説明会という形でさせていただいているんですけども、本当にこれまでですね、保護者の方たち皆様方からのご意見が一番多かったのは、やっぱり教育委員会が決定したことをお伝えする、そういう形に対してもものすごいご批判・ご意見等たくさんありましたので、今回その上で、やはり学校が一緒になっていくということは、本当に保護者や地域の皆様にとっても本当に大きな大きなことですので、そういったその話し合いをしっかりと皆さんとやっていきますというところの手順を今回、作らせていただきまして、改めてこういう形でご説明させていただいたところです。</p> <p>ですが、今回こうやって本当にお休みの日にお集まりいただきまして、今回のそのこういった手順の説明をさせていただいた以降ですね、また改めているんな人の小さなグループとか、また小さな単位での説明会をさせていただきまして、皆さんとしっかりとキャッチボールする機会をしっかりと作っていきなと思っておりますので、そういうところでやはりなかなかその全体の中ではご意見が通りにくいことも確かにありますので、そういう小さな単位での説明会、そういったところで、いろんなお話伺いさせていただきながら、私たちのこういう考えですよということをしっかりとキャッチボールできるようにしていきたいと思っておりますので、またそういったところでご理解いただければと思っております。</p>
<p>伊豆参事兼学校 指導課長</p>	<p>ご意見、ご質問のほうはよろしいでしょうか。</p>
<p>参加者 &lt;地域住民&gt;</p>	<p>平成28年の6月の教育委員会の定例会で「清小、清南小、それから緑台小学校と、陽明小学校、両地区の小学校統合に関することに関しては、再検討する」という旨を発表されてから、また平成29年の2月に学校適正化手順ということで、教育委員会が開かれて決定されて、議員協議会が開かれて、今日の説明会になっていると思うんですが、その変更というのは、こういう変わったところの部分の納得がどうもいかないんですよ、そこについての説明をまずしていただきたいのと、それから今日の教育委員会の学校配置の適正化に関する手順ですが、学校配置の適正化に関する手順であれば、川西市全体の小学校に関しての説明会を開くべきではないのかというのが頭にあります。多田グリーンハイツ地区と清和台地区における学校配置の適正化に関する手順でということでは、やはり多田グリーンハイツ地区の統合、それから清和台地区の小学校の統合ということがずっと</p>

<p>中西総務調整室 長兼教育推進部 参事</p>	<p>とこれから先、検討されるということで、この地域に関しては、適正化に関しての手順を説明いたしますよということで、今日会議が開かれたのではないかといいうふうに感じるんです。それでそういう状況になったときには、地域の皆さんと丁寧に話しながら今後も意見を取り入れながら進めてまいりますと言われておりますけども、今日こういうことが行われているということは、これからこの地域では統合が進むのではないかといいうことで、若い方々がこれからこの地域に入って住もうとか、子育てをしようということにはちょっと随分影響してくると思うんですけど、そんな点についても説明をお願いいたします。</p> <p>はい。まず1点目の変更した理由のところでございます。当初、市教育委員会といたしましては、児童数が減って小規模化していく中で、統合と言いますのは、ご存知のとおりメリット・デメリットがそれぞれあるわけなんですけど、全体を考えたときには統合のほうが望ましいだろうということで、方針決定いたしました。教育委員会といたしましては、子どもたちの教育環境を第一に考えて決定をしたところなんですけど、一方で、説明会を重ねる中で、学校のあり方ですとか、学校運営につきましては、保護者の方、地域の方のご理解とご協力を得ながら進めている大きな点がございまして、一旦その中身も踏まえまして、立ち止まって再検討して、今回の手順に至ったところであります。</p> <p>2点目の、なぜ両地区内に限って適正化を進めるのかといったところでございます。学校配置の適正化、統合に至るまでには2つのステップがございました。1つ目は、全市的な話で、小規模化する中でどう対応していくのかというのを検討したときに、3つの視点で考えていくことが望ましいという結論になっております。具体的に言いますと、どの学校でも同じような教育が子どもたちに提供できること。2点目が、子どもたちの通学距離の問題。3点目が、学校と地域との関係性。この3点を持って小規模化をしたときには、この3点を持ってどうしていくのかを検討するという視点に据えて考えることとしております。今回と申しますか、平成27年ですが、清和台地区とグリーンハイツ地区につきましては、この3つの視点で検討したときには、その時点では統合が望ましいのではないかといいう結論に至って説明会に入らせていただいたということでございまして、逆に言いますと、他の2地区以外の地区につきましては、まだその3つの視点での検討に至っていない状況でございますので、現時点におきまして、この適正配置の手順で進めていくのはこの地域というようなところで考えております。</p>
<p>参加者 &lt;地域住民&gt;</p>	<p>ちょっと1点だけお聞きしたいんですが、先ほどの意見述べられた方とほぼ近いんですが、平成28年6月の教育委員会の定例会でね、両地区の小学校に関する統合に関しての再検討を決定されたわけですね。まあそれを受けて平成28年8月20日に清和台小学校と、清和台南小学校で説明会を受けました。そうなると、その平成28年6月に再検討されてから今日の内容と、何がどう変化したのか、その辺のところをちょっと触れていただけたらありがたいなと思いま</p>

<p>中西総務調整室 長兼教育推進部 参事</p>	<p>す。これは再検討された内容、それと変更された内容についてですね、ちょっと具体的に説明を受けたいと思いますので、お願いします。</p>
<p>参加者 &lt;未就学保護者&gt;</p>	<p>はい。再検討前と、再検討の後で変わった点と、変わらなかった点を説明させていただきます。まず変わっていない点といたしましては、現時点での教育委員会の方針といたしまして、多田グリーンハイツ地区・清和台地区につきましては、適正化を進めていくという方針、こちらは変わっておりません。変更した点につきましては、主に3点ございまして、1点目が統合の時期でございます。当初の計画では年度を示しておりましたが、現時点では年度未定としております。2点目が、使用する学校につきましては、当初の計画ではこの地域につきましては、清和台南小学校ということでお示しておりましたが、現時点では学校も未定でございます。3点目が、以前は統合の進め方、プロセスがお示できていなかったんですが、今回につきましては、今日お示しました手順、これに沿って進めていくということで、手順も新たに作った。以上の3点が変更したところでございます。</p> <p>すみません、幼稚園で今、年少を通わせている未就学の母親なんですけども、こっちに私も、清和台に引越ししてきて半年ぐらいしか経っていなくて、正直、清和台小学校と清和台南小学校がもし統合するとなったら、子どもが、例えば恐らく今のお話を聞いていたら、もしかしたら3年後か4年後ぐらいに統合するということでしたら、小学校2年か小3ぐらいで変わる形になると思うんですけど、場所が今、清和台西の1丁目に住んでまして、ここだったら全然近くて良くて、清和台南小学校にもし合併したらなるって聞いてたんで、ちょっとこっちに引っ越ししてきて足とか考えながらこっちに引っ越ししたつもりだったんで、変わるんだったら確実に何年に変わりますと決めてもらわないと、不安でしょうがなく、それで、もちろん再検討されたというお話を今いただいていますけど、できればいつまでに話を決定していただきたいというのを、今日、明日とかではないんですけど、来月とか、そういった形で話を進めていかないと、また再検討になりましたとか何回も何回もなると困るので、そういったことのお考えをお聞かせいただきたいと思うんですけども、お願いします。</p>
<p>志波学務課長</p>	<p>はい、ありがとうございます。ご心配になるお気持ち、よくわかります。先々のことがですね、今回の手順では具体的にはお示ししておりませんので、不安に思われるお気持ちは重々お察ししておるわけなんですけども、今、住まれているその場所によってもその考え方が様々でもあるし、あとその今、気にされている時期なんですけども、やはり早いほうがいいとおっしゃる方もいれば、一方でしばらく様子を見たほうがいいと違うかというようなご意見もですね、非常に様々分かれてるところだと思うんですね。そんな中で、やはり皆様のご意見を十分聞いた上で判断させていただくことが今後の進め方として適切であるという判</p>

<p>参加者 〈地域住民〉</p>	<p>断をしています。ですので、今の時点でまた皆様の意見をお伺いできていない中でですね、両地区では何年後ということ、今決めてしまうことについては、今後検討していく中で適切ではないという判断をしております。ですので、不安を感じられているということはわかるんですけども、今の時点では年度については、お示しできないということでございます。</p> <p>もう1点だけ、よろしいでしょうか。先ほど志波課長のほうから説明があったときに、新たな児童推計手法の数字を今、児童数を見ているんですが、これは参考ということで今、受け止めてるんですが、まあ今後の中で、やはりまあ実態ベースでやっていきたいということなんだけど、今後の説明会、これ最後じゃないと思うんですが、されると思うんですが、その時にこのデータといったものはずっと出されるんですか。というのは、住民の方はこの実態のこの数字を見てね、いつ頃清和台南小学校のほうで単学級が発生するなという予想もされてくると思うんです。そうなってくると、平成34年度まで出されている数字そのものがどこまで信憑性があるのかどうか。今、現においても清和台小学校の1年生でも当初2つの学級が1クラスになっているという実態がここの数字に表れているわけですね。それでいくとやはり清和台南小学校のほうで早く単学級が発生してくると。そうなってくると皆さんの思いとしては、清和台南小学校のほうに先に単学級が発生するようであれば、統合先が清和台小学校かなというふうに思われがちやと思うんですね。だからそういったものでやっぱり数字というのは一人歩きしてしまう、混乱を招く恐れがありますので、今後ともこういう形の数字というか、データを出されていくのかどうか。それとも実態ベースで説明をされていく、その辺のところをちょっとお聞きしたいんですが。</p>
<p>志波学務課長</p>	<p>はい。この児童数推計に関しましては、今回その資料でお出ししている数字なんですけども、下段の表に清和台地区の状況を書かせていただいております。例えば、清和台小学校では1年生は48人というのが平成29年度の推計値になっておりますけども、実際今年度は35人ということで、ここで13人の差が生じています。一方で、清和台南小学校のほうでは、この推計では40人ということですが、実際には45人、ここも5人の差が生じているということで、昨年度、1年前のデータを使った時点でもこれだけの差がでてきているということ。特にその将来的なこの地区での住宅開発であったりとか、転入転出、いわゆる社会増減ですね、そうした状況については非常に予測しづらいということをこの資料で改めて我々としても認識させていただいているところです。この推計につきましては、基本的にはこの内部資料としてですが、毎年我々としては作成をしています。ですが、本日冒頭にご説明させていただいたとおり、推計というのは用いずに今後検討を進めていくということで考えております。ですので、検討を始める時期についても推計というものは一切用いないということで考えております。ただ、もしですね、今後、皆様方と小人数単位の説明会を開催させていただくと</p>

<p>参加者 &lt;地域住民&gt;</p>	<p>ということも考えておるわけなんですけども、そういった中で必要性が出てくるのか、出てこないのか、また要望があればですね、またその資料を見ながらということも考えられはするんですけども、今のところはこの推計表は内部資料として活用するという事を考えています。状況に応じて取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>すみません、今日の手順の資料の6ページのところなんです。最後のほうなんですけれども、「学校配置の適正化に向けて、検討すべき状況がきましたら、市長部局と協働のもと」というところがあるんですけども、そのところ今までそういう説明って「市長部局」とかという言葉が出てこなかったかなと思うんですが、その「市長部局と協働のもと」というのをもうちょっと詳しくちょっとわかるように説明をしていただきたいと思います。</p>
<p>志波学務課長</p>	<p>はい、ありがとうございます。その6ページのその最後、3行目のところに今、ご指摘があったと思うんですが、このページの上段のほうに、学校の跡地利用についてというところで記載をさせていただいております。上から5行目以降ですけども。今後、学校配置の適正化を考えた後にですね、学校選定後に跡地利用を考えるとということも今後のまちづくりの中で必要になってくることで、我々教育委員会としましては、学校施設、教育施設の配置・設置に関しては教育委員会の権限においてということになりますが、今後その跡地利用ということになれば、教育用財産ということではありませんので、まちづくりということを担当する市長部局のほうと一緒にですね、考えていくということで書いております。ですので、ただ、この中で確かに具体的なお示しはできてないんですけども、今後の進め方、詳細につきましては、これから検討を進めていくということで考えておりますので、今の時点ではどういった活用をしていくのかとか、そういったところまではお話しはしていないということでございます。</p>
<p>参加者 &lt;地域住民&gt;</p>	<p>今のお答えいただきましたが「市長部局と協働のもと」というのは、跡地利用とかそういう説明でしたが、それだけのことなんでしょうか。今、全国で、学校の統合が進んでおりまして、文科省としては平成32年までに計画を上げて国が承認したら補助金を出すということで、32年までに承認ができたところ、計画ができて国に承認されたら文科省から補助金が下りる、それで統廃合を進めていくということで、全国が進められていると聞いておりますが、それに向けてとかそういうことではないんでしょうか。</p> <p>それと今、聞いた話では、丹波市は合併をされたんですが、市島町というところでは今、小学校15人とか、ちょっと8人とかで住民の賛成・反対・賛否を問うたところ、統合するかどうかでは賛成48%、反対48%になってどうするかという住民の方々にご意見を問うたところ、今18人でもクラス8人でも全然困っていない。クラスが小さいからいろんなことが先生にもよく見もらえるし、</p>

<p>中西総務調整室 長兼教育推進部 参事</p>	<p>楽しくて運動会も地域を挙げて楽しくやっているし、全然困ってないんだと。だからなんで小規模校がダメなんだという意見も出てるということも聞いております。</p> <p>補助金の関係でお話をいただいたんですが、教育委員会で当初、統合の方針を出した時には、子どもたちの教育環境を考えて教育委員会の発意でもって統合が望ましいのではないかとということで、その当時も市長部局と協議をしてやっていくということでございますので、また現時点におきましてもその補助金がどうこうという話ではなくて、教育環境としてどうあるべきかという視点で学校のあり方というのは考えています。ですので、市長部局との協働という点につきましては、先ほど学務課長からの説明がありましたとおり、跡地利用とか、まあ付け加えるとしましたら、地域コミュニティと学校との関係とかいう点もございまして、まあその辺を含めての協働ではございますが、補助金、交付税等の件で協議するというところでございせん。</p> <p>それと、2点目の小規模校を選んだ時の統合賛成・反対というような議論が各地でされているようなんですが、私どもとしましては、今後、皆様のご意見をお伺いしながら、最終的には賛成なのか反対なのかというその部分ではなくてです、どういった形が子どもたちに望ましいのか。先ほども言いましたように、現時点では教育委員会としては、統合が望ましいと判断してるわけなんです、皆さんからその辺りのご意見をいただいて、最終的には判断していきたいと考えてございます。</p>
<p>伊豆参事兼学校 指導課長</p>	<p>ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p>
<p>伊豆参事兼学校 指導課長</p>	<p>たくさんのご意見をありがとうございました。 それでは、最後に教育推進部長の木下よりごあいさつを申し上げます。</p>
<p>木下教育推進部 長</p>	<p>それでは、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。もうたくさんね、貴重な意見をいただいたということで、大変嬉しく思っております。多分と言いますか、我々教育委員会もそうですし、保護者の皆さん、日本全国同じだと思うんですけど、一番に望んでいることは、やはり子どもの数が増えて学校が今のまま存続していく、これが一番に望んでいる。これはもう間違いのないことです。ただ、既にご存知だと思いますけど、日本の国全体の少子化ということを知ったときに、やはりそれに向けての準備というのは進めていかないとけない。その中で、大切なのはやはり子どもたちにとって今まで以上によりよい教育環境はどういう環境なのかということをややはり真剣に考えて、また地域の方、あるいは保護者の方々の意見を交えながらどういった環境を創っていくのかということを考えていくことがすごく大切なことだと思っております。そういった</p>

<p>伊豆参事兼学校 指導課長</p>	<p>ことで、今日お集まりいただいたのは、そのまあ入口の部分に当たるのかなというふうに思っています。また今後も色々な会議等ね、未就学の保護者の方にも来ていただけてますけれども、そういったお母さん・お父さんに集ってもらって、どうしていこうかというお話をしたいと思っていますし、当然、現小学校あるいは地域そういったところでお話をしながらどういった方向にするのかなど考えていきたいと思っております。また今日こういったところでご意見出せなかったことなんかもしかもし疑問があるようであったりとか、どうなってんのということがありましたらね、教育委員会の学務課のほうに問い合わせいただきましたらね、丁寧にお話を重ねていく。そういった中で、学校配置の適正化を進めていきたいというふうに考えています。そういったことで、本当に子どもたちにとってより良い環境を創るということをそれを目指していきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。今日はね、十分な意見があまり出されなかったということもあると思いますけれども、まあ今後この会議で終わりということではございませんので、またいろんなところで対話をしていきたいと思っています。</p> <p>本日は、どうもありがとうございました。</p> <p>これをもちまして、本日の地域説明会を閉会いたします。ありがとうございました。お気をつけて、お帰りください。</p> <p style="text-align: center;">閉会</p>
-------------------------	--